



2013 年 2 月 27 日

各 位

会 社 名 第 一 三 共 株 式 会 社
代 表 者 代表取締役社長 中山 譲治
(コード番号 4568 東証・大証・名証各第1部)
問合せ先 執行役員コーポレートコミュニケーション部長 石田 憲昭
TEL 報道関係者の皆様 03-6225-1126
株式市場関係者の皆様 03-6225-1125

本資料は、ランバクシーが2月26日に英語で発表したプレスリリースを日本語に翻訳し、再編集したものです。本資料の正式言語は英語であり、内容および解釈については英語が優先されますことをご了承ください。また、本資料はインドの会計基準に基づくものであり、当社が5月13日に発表予定の日本基準の決算時には一部調整等が入りますことをご了承ください。なお、本資料の原文（英語版）は <http://www.ranbaxy.com> をご参照ください。

ランバクシー・ラボラトリーズ社の 2012 年決算について
～期初見込み達成、グローバルで売上高 1,200 億インドルピーを超過～

2012 年第 4 四半期（10～12 月）売上高 26,708 百万（267.08 億）インドルピー

2012 年通期（1～12 月）売上高 1,230 億インドルピー

EBITDA 18,227 百万（182.27 億）インドルピー

EBITDA 対売上高比率 15%；売上高 23%増（インドルピーベース）

インド共和国ハリヤナ州グルガオン地区（2013 年 2 月 26 日）

ランバクシー・ラボラトリーズ社（本社：インド共和国ハリヤナ州グルガオン地区、以下「ランバクシー」）は本日、2012 年第 4 四半期（10～12 月）および 2012 年通期（1～12 月）のインド会計基準に基づく監査済の決算を発表いたしました。

1. 財務ハイライト

2012 年第 4 四半期（10～12 月）連結業績の概況

- ・ 連結売上高 26,708 百万ルピー [前年同期：37,520 百万ルピー]
- ・ EBITDA 528 百万ルピー
- ・ 税引き後損失 4,924 百万ルピー

- 第4四半期の連結売上高は、アトルバスタチン独占販売開始による大幅な貢献があった前年同期よりも減収となりましたが、独占販売品等を除いたベースビジネスでは2ケタ成長を示しました。
- 第4四半期の収益性は、主にアトルバスタチンの製品自主回収に伴う損失1,860百万ルピーや、ルピー安による長期デリバティブ契約や外貨建てローンに関わる為替の評価替えに伴う損失2,619百万ルピーによる影響を受けました。

2012年通期（1～12月）連結業績の概況

- ・ **連結売上高** 122,529 百万ルピー [前年同期： 99,700 百万ルピー]23%増
 - ・ **EBITDA** 18,227 百万ルピー 対売上高 15% [前年同期： 16,040 百万ルピー]
 - ・ **税引き後利益** 9,228 百万ルピー [前年同期： 28,998 百万ルピー（損失）]
- 売上高に対する税引き後利益率は8%でした。これには、1,860百万ルピーの製品回収に伴う損失、および為替の評価替えに伴う損失1,652百万ルピーを含んでいます。独占販売品等を除いたベースビジネスの収益性は前年と比較し改善しました。

ランバクシーのCEO兼社長のアルン・サウニーは次のように述べています。

「2012年は我々にとって様々な要因が混在した1年でした。幾つかの製品についてはかつてない力強い売上を示した一方、年末には米国におけるアトルバスタチンの製品回収などの困難にも直面しました。アトルバスタチンの製品回収については、患者様の利益を最も考慮し、積極的に自主的な回収を行いました。また幾つかの修正・予防措置（CAPA）をとり、米国の製剤工場へ原薬の出荷を再開しました。」

「FDAとの同意協定の履行については、全ての条件を遵守しつつ今日まで良好に進捗しております。そして大型ANDA品目のビジネス化については、引き続き自信をもっています。先進国市場では高付加価値化された製品およびブランド戦略にフォーカスするという方針に沿い、米国の皮膚科領域で新薬 Absorica™（難治性患者向けニキビ治療薬）を上市しました。我々は、急速に変化するビジネス環境において、競合力のある強みをもちつつ、市場で更に強固なポジションを占めるべく、幾つかの重要な施策を実施しております。」

2. 主要ハイライト

ビジネス

- ・ 2012年第4四半期および2012年のベースビジネスの売上高は、前年同期比で2ケタ成長となりました。
 - 2012年第4四半期は、インド、アフリカ、東欧およびCISなどの主要な新興国市場で成長を示し、2012年全体では全ての主要新興国および先進国市場で成長を示しました。
- ・ ランバクシーは幾つかの製品機会を具現化しました。そのうち重要であったのは、
 - インド初の新薬となる Synriam™（成人の P. falciparum マラリア：熱帯熱マラリア原虫に対する治療薬）を上市しました。これはインド医薬品市場（IPM）において上市された新薬の中、最も注目すべき成果の1つです。
 - ピオグリタゾン（武田薬品工業（株）のアクトス®：米国での売上規模は年間27億ドル）のオーソライズドジェネリックを米国で上市、30%以上のシェアを獲得しました。
 - カデュエット® AG（アトルバスタチンとアムロジピンの配合剤のオーソライズドジェネリック）は、独占販売期間終了後も市場リーダーの地位を維持しました。

- Absorica™（難治性患者向けニキビ治療薬）を 2012 年 11 月に上市しました。ブランド製品であり市場シェア獲得が期待されています。
- 米国でエボザック®のブランド名で第一三共 Inc. が販売している、セビメリン 30mg カプセルのオーソライズドジェネリックを上市しました。
- ・ インドでの売上成長率は 12%で、市場(IPM)全体の成長率よりも高い伸びを示しました。
- ・ 第一三共とのハイブリッドビジネスモデルのもと、タイにおけるビジネス統合により協業を更に強化しました。

薬事、研究開発、生産

- ・ 2012 年第 4 四半期中に、米国 FDA、欧州/EMEA、ドイツ、南アフリカ、インドなど、15 の薬事当局による査察が、ランバクシーの世界中の生産施設において行われました。
- ・ 2012 年 1 月、ランバクシーは、米国 FDA と締結した同意協定書（Consent Decree: CD）が合衆国連邦地方裁判所に承認されたことを発表いたしました。同協定書の履行については、計画通り進捗しています。
- ・ マレーシア政府より、新たな製造施設建設の許可を得ました。これにより既存の生産能力を著しく高めることができ、ASEAN 地域の需要に応えることが可能となります。またモロッコに新しい工場を建設し、北アフリカにおける直接的な事業展開への道を開きました。

3. グローバル売上高

2012 年第 4 四半期（10～12 月）の連結売上高は 26,708 百万ルピーとなりました（前年同期：37,520 百万ルピー）。アトルバスタチン独占販売開始による大幅な貢献があった前年同期よりも減収となりましたが、それを除いたベースビジネスでは、前年同期比で 2 ケタ成長を示しました。

2012 年通期（1～12 月）の連結売上高は 122,529 百万ルピーと、前年同期の 99,700 百万ルピーに対してルピーベースで 23%の増収となりました。

第 4 四半期の新興国における売上高は 13,628 百万ルピーで、全体の 51%を占めました。また先進国における売上高は 10,938 百万ルピーで全体の 41%を占めました。2012 年通期では先進国の割合は 53%になっております。残りの売上高は原薬とその他によるものです。

- ・ **北米：**第 4 四半期の売上高は 8,510 百万ルピーとなりました。通期の売上高は、アトルバスタチンおよびアトルバスタチンとアムロジピンの配合剤の独占販売と独占販売終了後の好調な売上に支えられ、53,336 百万ルピー、28%の増収となりました。
 - 米国では、第 4 四半期の売上高は 7,371 百万ルピーとなりました。通期の売上高は 49,677 百万ルピー、前年同期比 31%の増収となりました。
- ・ **インド(含：スリランカ、コンシューマーヘルスケア)：**第 4 四半期の売上高は 5,418 百万ルピー、前年同期比 12%の増収となりました。インド製薬市場の成長率は第 4 四半期には前期比 9%へとダウンしました。通期の成長率は 11%でした。
 - コンシューマーヘルスケア（OTC）事業の売上高は通期で 1,013 百万ルピーとなりました。通期の売上高は 21,661 百万ルピー、12%の増収となりました。この内、コンシューマーヘルスケア（OTC）事業の貢献は、3,733 百万ルピーでした。

- ・ **東欧および CIS**：第 4 四半期の売上高は 3,830 百万ルピー、17%の増収となりました。
通期の売上高は 13,374 百万ルピー、8%の増収となりました。
- ・ **西ヨーロッパ**：第 4 四半期の売上高は前年同期並みの 2,209 百万ルピーとなりました。
通期の売上高は、新製品上市の効果で 9,509 百万ルピー、21%の増収となりました。
- ・ **アフリカ**：第 4 四半期の売上高は 4%増収の 2,656 百万ルピーとなりました。
通期の売上高は前年同期並みの 9,428 百万ルピーとなりました。
- ・ **アジア パシフィック（含：中東）**：第 4 四半期の売上高は 1,354 百万ルピーとなりました。
通期の売上高は 5,715 百万ルピー、6%の増収となりました。
- ・ **ラテンアメリカ**：第 4 四半期の売上高は 591 百万ルピー、通期の売上高は 2,201 百万ルピーとなりました。
- ・ **原薬その他**：第 4 四半期の売上高は 2,142 百万ルピー、通期の売上高は 7,305 百万ルピーとなりました。

2013 年の見通し： 1,200 億インドルピー以上の売上高の達成を見込んでおります。特にベースビジネスでは 10%以上の成長を見込んでおります。

**特に記載がない限り、全ての成長率の数値は期間中の為替変動を除いた一定の為替ベースで計算しています。*

以 上